

(2) 県内で栽培されているその他の品種

早晚性 注)	品種名	育成者 品種登録年	樹姿	耐寒性	耐病性		クシカハ がラムシ 抵抗性	収量性 (対やぶきた)
					炭疽病	輪斑病		
早生 (-7~-4)	さえみどり	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 1991年	中間	赤枯れにやや強 青枯れに中	中	弱	中	同等もしくは多収
早生 (-3~-2)	さやまかおり	埼玉県 1971年	中間	赤枯れに強 青枯れに強 裂傷型凍害に強	弱	やや強	強	極多
やや 早生 (-4~-3)	つゆひかり	静岡県 2000年	中間	赤枯れに強	極強			多
やや 早生 (-4~-3)	さえあかり	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 2012年	やや 開張	赤枯れに中 裂傷型凍害にやや強	強	強	弱	多収
やや 早生 (-2)	さきみどり	宮崎県 2001年	中間	赤枯れにやや強 裂傷型凍害にやや強	中	やや強	弱	やや多収
中生 (-1)	めいりよく	農水省茶試 (金谷) 1987年	中間	赤枯れにやや強 青枯れにやや強 裂傷型凍害にやや弱	やや強	強	弱	多~極多
中生 (+1~+2)	べつふうき	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 1995年	開張	赤枯れに中 青枯れに中	強	強		多収
中晩生 (+3)	ごこう	京都府 育成1954年	中間	赤枯れにやや強 青枯れにやや強				中
中晩生 (+4~+5)	おくゆたか	農水省茶試 (金谷) 1983年	やや 開張	赤枯れに強 裂傷型凍害に中	弱	弱		多
参考 (中生)	やぶきた		やや 直立	赤枯れにやや強 青枯れに中 裂傷型凍害にやや強	弱	弱	弱	

品質特性	その他の留意点
色沢の評価が高く、明るく冴えた鮮緑色を特徴とする。香気はやぶきたと異なる芳香を有し、滋味は渋味が少なく、うま味がある。	早生品種のため晩霜害を受けやすく、晩霜害後の回復も悪い。水色は普通蒸しの場合、やや赤みを帯びる場合があり、少し深蒸しすることできれいな緑色になる。
黒み、太よれ。茎目立たない。香気に特徴があり、渋味は出やすい。	耐寒性が強い。やぶきたより栽培し易い。凍霜害後の回復が極めて良い。早生種なので防霜施設必要。
細よれ、色沢は鮮緑。水色は明るさがあり良好。香気は爽やかで、滋味は調和のとれ溫和。	耐寒性が強いので、適応範囲が広い。生育が極めて旺盛であるため、摘みや低めのせん枝を行い分枝数を確保する必要がある。炭疽病に極めて強い。奈良県では許諾がないので自家増殖も含めて新規の植栽はできない。
一番茶は、水色が明るく、滋味も良好。二番茶についても夏茶臭が少なく、品質良好。さえみどり同様のやぶきたとは異なる芳香（蒸かしたサツマイモ様）を有する。	もち病にはやや弱。クワシロカイガラムシに対する抵抗性はない。（やぶきたと同程度）
色沢は鮮やかな緑。水色は濃緑で澄んでおり、さわやかな香気で滋味は溫和である。	やぶきたに比べクロロフィル含量が多い。葉が大きめであるので、摘採時に注意が必要。
外観は大型、扁平になりやすい。やぶきたと同等でやぶきたに似る。香気、滋味に清涼感がある。滋味はやや淡泊（うまみがやや少ない）。摘採遅れによる品質劣化が著しく大きい。	摘採適期を逃すと極端に品質が劣化するので、やぶきたより1日程度は早めに摘採する。新芽が出開きにくい。土壌条件に対する適応性が広い。干ばつにやや弱い。
良品質の紅茶及び半発酵茶用品種である。紅茶の品質特性は滋味は濃厚、水色は深紅色、清香を併せ持つ。	暖地では裂傷型凍害が発生しやすい。メチル化カテキンは二、三番茶に多く、紅茶の製造で消失するため、緑茶での製造が必要である。
玉露・てん茶として品質は独特の香味をもち、また、煎茶としても一般に品質が良く、特に香気がすぐれる。	おおい下栽培でも露地栽培でも新芽の茎の硬化が早く、摘採適期の幅がやや短いので、摘み遅れると茎が目立つ。
上品で優雅な香気と、うま味が強く、こくがあり、まるやかな味が特徴。	新芽が硬化しやすいので、適期を過ぎると揉めなくなり、外観が大型になって極端に品質が低下する。新芽の色が濃く、葉肉が厚めなので、深蒸しに適している。

出典：『茶の品種』（（社）静岡県茶業会議所）、茶業研究報告（日本茶業技術協会）  
 野菜茶業研究所が育成した注目の茶品種（野菜茶業研究所茶育種グループ）  
 品種登録データ（農林水産省 品種登録ホームページ）

注）早晚性の（）内の数字は対やぶきたの摘採日比較（茶品種ハンドブックより）